

## 編集責任

大熊 孝 潟環境研究所所長

## 執筆・編集

大熊 孝 潟環境研究所所長

水野 利数 潟環境研究所事務局長

小泉 英康 潟環境研究所事務局次長

吉川 巨人 潟環境研究所研究員

丸山 紗知 潟環境研究所研究員（自然環境分野 担当学芸員）

隅 杏奈 潟環境研究所研究員（民俗分野 担当学芸員）

## 制作協力

株式会社グリーンシグマ

## 編集後記

水鳥が生き生きとさえずる福島潟。初めて新潟市を訪れたときのことを思い出します。2015年4月に採用され、それまで新潟市のことを何も知らなかった県外出身の私は、地域に何度も足を運ぶ中で、潟の自然と触れ合う人たちの生き生きとする姿、冬にハクチョウが飛翔する光景にとっても魅力を感じ、引き込まれていきました。

今年度、研究所3年間の総括として提言をとりまとめるにあたり、大熊孝所長をはじめ、多彩なバックグラウンドを持った関係者と意見交換し、アドバイスや時に鋭い指摘を受けながら議論をした過程は、知的な刺激に満ちた経験でした。

新潟市の潟を「人と潟との関係性」を軸に、自然環境、歴史・文化、市民活動等、多様な分野から掘り下げることで、「人と自然の関係を再構築していく」という大きなテーマにつながる報告書になったのではないかと思います。本書の作成にあたり、原稿執筆や資料提供で多大なるご協力をいただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

これからも、新潟市の潟を体感しながら、その魅力と価値を多くの人に伝えていきたいと思っています。

潟環境研究所研究員 隅 杏奈